

# 包括システムによる日本ロールシャッハ学会 第22回福岡大会

## プログラム・抄録集



テーマ *包括システムの魅力に会う in 九州*



2016年6月11日(土)・12日(日)

西南学院大学

# 大会日程

## 1 タイムスケジュール

【第1日目 6月11日(土)】

| 9:30～ | 10:00～12:00            | 12:00～13:00 | 13:00～17:00            | 17:15～18:15 | 18:30～20:30 |
|-------|------------------------|-------------|------------------------|-------------|-------------|
| 受付    | 認定資格基礎研修<br>(CPCS-1-B) | 昼休み         | 認定資格基礎研修<br>(CPCS-1-B) | 特別公開講演      | 懇親会         |
|       | ワークショップ A              | 理事会         | ワークショップ A              |             |             |
|       | ワークショップ B              |             | ワークショップ B              |             |             |

【第2日目 6月12日(日)】

| 9:00～ | 9:30～11:30        | 11:30～12:30 | 12:30～13:30 | 13:30～16:30 |
|-------|-------------------|-------------|-------------|-------------|
| 受付    | 研究発表<br>(口頭・ポスター) | 総会          | 昼休み         | 事例検討        |
|       |                   |             | *ポスター発表     |             |
|       |                   |             | 編集委員会       |             |

\*ポスター発表筆頭者の在席時間は、13時から13時30分までです。

## 2 会場

【第1日目 6月11日(土)】

- ・認定資格基礎研修(CPCS-1-B) ..... 4号館301教室
- ・ワークショップ A ..... 同 201教室
- ・ワークショップ B ..... 同 202教室
- ・理事会 ..... 学術研究所大会議室(4号館隣り)
- ・特別公開講演 ..... 4号館203教室
- ・懇親会 ..... 西南クロスプラザ2階(東キャンパス)

【第2日目 6月12日(日)】

- ・口頭発表 A: 4号館201教室 B: 同202教室 C: 同301教室 D: 同302教室
- ・ポスター発表 ..... 4号館101・102教室廊下
- ・総会 ..... 同 203教室
- ・編集委員会 ..... 学術研究所大会議室(4号館隣り)
- ・事例検討 ..... 4号館203教室

# 参加者へのご案内

---

## 1 受付

6月11日(土)9時30分から、認定資格基礎研修(CPCS-1-B)に参加される方は4号館301教室(3階)にて、ワークショップに参加される方は4号館101教室(1階)にて受付を行います。

6月12日(日)の本大会のみ参加される方は、同日9時から4号館101教室(1階)にて受付を行います。

6月11日(土)に受付をされた方は、本大会当日の受付の必要はありません。名札を着用の上、直接会場においでください。

事前送付いたします「プログラム・抄録集」及び名札(名札ケースは受付時にお渡しします)をお忘れにならないようご注意ください。お忘れになった場合は、大会受付にて有料で配布いたします。なお、入金確認ができなかった申込未完了の方には、当日受付にて名札をお渡しします。

研修証明書及び大会参加証は、終了時に各会場にて配布します。再発行はいたしませんので、各自で保管願います。

※事前予約をされずに当日参加される方は、4号館101教室(1階)にて、申込用紙に所定の内容をご記入のうえ、参加費を添えてお申ください。6月11日(土)のワークショップへの当日参加も可能ですが、認定資格基礎研修(CPCS-1-B)は定員に達していますので参加できません。

※非学会員は、原則として保健・医療・福祉・教育・司法等の領域で心理臨床などの実務経験を持つ方とさせていただきます。大学院生の方は、この限りではありませんが、守秘義務の責任を負うことが条件です。当日、大会受付にて学生証を提示していただき、誓約書に所定の内容をご記入いただきます。

なお、特別公開講演については、上記に加え、臨床心理学専攻及び関連分野の大学生も参加可能です。特別公開講演のみ参加の方は、会場入口で受付を行います。また、大学院生及び大学生については、学生証を提示していただき、誓約書に所定の内容をご記入いただきます。

## 2 懇親会

6月11日(土)18時30分から、東キャンパスの西南クロスプラザ2階にて行います。会場ではピアノの生演奏と九州の焼酎をご用意してお待ちしております。

当日参加を希望される方は、大会受付(101教室)にてお申ください。なお、定員に達した場合はご希望に添えないことがございます。

参加費 4,000円

## 3 総会

6月12日(日)11時30分から4号館203教室で総会を開催いたします。学会員の方はご参加ください。

## 4 ロールシャツハアーカイブスの上映

大会期間中、4号館102教室(休憩室)において、第20回記念大会時に上映された Hermann Rorschach に関する映像「ロールシャツハアーカイブス」を繰り返し上映いたします。ぜひ、ご覧ください。

## 5 書籍販売コーナー

大会期間中、4号館203教室前の階段踊り場に書籍販売コーナーを設けますのでご利用ください。

## 6 昼食・休憩

6月11日(土)は学内の学生食堂(中央キャンパス)と西南クロスプラザ1階(東キャンパス)が営業していますが12日(日)は休業です。地下鉄西新駅周辺には飲食店やコンビニがありますのでご利用下さい。大会受付(101教室)にて昼食マップをお渡ししています。また、4号館102教室(休憩室)は飲食可能です。

## 7 掲示・連絡

大会本部から参加者への連絡は掲示板で行います。参加者相互の連絡につきましても掲示板をご利用ください。大会期間中、掲示板は大会受付(101教室)付近に設置します。

## 8 大会本部

大会期間中、大会本部(101教室)を設置します。なお、大会スタッフは、スタッフ用の名札をつけておりますので、不明な点があれば、お気軽にご質問ください。

## 9 荷物置き場

4号館101教室：6月11日(土) 9時30分～18時20分、12日(日) 9時00分～16時40分

## 10 学会事務局の設置

6月12日(日)の昼休み(12時30分～13時30分)に1階、ポスター発表付近に学会事務局を設置します。年会費の納入をご希望の方は、会費と振込用紙をご持参ください。

## 11 駐車場

西南学院大学に駐車施設はありませんので、最寄りの公共交通機関をご利用ください。

## 12 臨床心理士研修ポイント・精神科専門医ポイントについて

- ◆公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の規定に則り、臨床心理士の研修ポイントとして申請することができます。臨床心理士のポイント申請の際は、大会参加証および「研修証明書」をご使用ください。なお、後日これらの再発行はいたしませんので、大切に保管してください。
- ◆日本精神神経学会精神科専門医制度における精神科専門医資格の更新に必要とされる取得単位を得る方法の一つとして認定されています。大会参加により規定にあるポイントを取得する場合には、大会受付(101教室)にお申し出ください。

## 13 その他

- ・大会中は全てのプログラムについて撮影・録音はご遠慮ください。
- ・喫煙される方は、中央キャンパス体育館前か西南クロスプラザ北側にある喫煙所をご利用ください。

## 14 お問い合わせ

- ◆大会前日まで：JRSC 第22回福岡大会事務局 E-mail:jrsc22fukuoka@yahoo.co.jp
- ◆大会当日：大会本部・西南学院大学4号館101教室(1階)

電話：070-2400-3347(大会期間中のみ)

## 認定資格基礎研修(CPCS-1-B) 4号館 301 教室(3階)

講師:市川京子(東京武蔵野病院), 小澤久美子(青森家庭裁判所)

※CPCSは予約参加のみ。すでに申し込みは締め切っています。  
※ワークショップA及びBについては、資料は当日配布となりますが、当日参加できます。なお、資料の準備の都合上、大会事務局にメールでの申込みをお願いいたします。

## ワークショップ A 4号館 201 教室(2階)

「ロールシャッハの体験型

～“つぶれ型”から回復する, とどまる, つぶれ型になる, とは～」

講師:中村紀子(中村心理療法研究室, JRSC顧問, ISR会長)

JRSC第20回大会では、「つぶれ型」について初めて検討しました。このワークショップではさらに具体的にケースを通して、「つぶれ型」について理解を深めます。さまざまな臨床で困難をもたらすこれらのクライアントの理解を通して、ロールシャッハをこれから学ぶ方には、アセスメントの魅力が伝わり、経験者の方には、結果をレポートするのが困難だったこれらのケースの本質を理解する糸口となることを願っています。

## ワークショップ B 4号館 202 教室(2階)

「子の心親知らず ～子どものこころを可視化する～」

講師:野田昌道(横浜家庭裁判所川崎支部, JRSC会長)

事例検討を中心としたワークショップです。古今東西、「大人は判ってくれない」は映画や小説のテーマになってきました。かように思春期のこころは時に複雑で、なかなかわかりにくいものです。その複雑さをロールシャッハのデータからどう理解し、さらにはその理解をいかに家族と共有し、援助につなげるのか、一緒に検討したいと思います。参加者としては次のような方々を想定しています。ロールシャッハ解釈のスキルアップを目指している(初級から中級へ!)。思春期青年期の事例を扱うことが多い。家族援助にロールシャッハを生かしたいと思っている。皆さまの能動的な関与を期待しています。

# 特別公開講演

6月11日(土) 17:15~18:15 4号館203教室(2階)

演題:表現の成り立ちと表現の読み取り

～箱庭, 事例研究, もしかしてロールシャッハ

講師:安部計彦(西南学院大学教授, 大会顧問)

司会:金城正典(琉球大学保健管理センター 大会長)

## <講師略歴>

- 1977年 甲南大学文学部社会学科 卒業
- 1978年 北九州市児童相談所 心理判定員
- 1992年 北九州市児童相談所 判定係長
- 2005年 西南学院大学人間科学部社会福祉学科 助教授
- 2009年 東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科社会福祉学専攻博士前期課程 入学
- 2010年 同課程 卒業(修士, ソーシャルワーク)
- 2011年 西南学院大学人間科学部社会福祉学科 教授

## <主な著書・論文等>

- 編著 2001年 『ストップ・ザ・児童虐待』ぎょうせい  
2009年 『一時保護所の子どもと支援』明石書店
- 編集代表 2005年 『子ども虐待法律問題 Q&A』第一法規
- 共編 2008年 『子どもを守る地域ネットワーク実践ハンドブック』中央法規
- 論文  
1999年 「トラウマワークとしての箱庭療法」日本嗜癡行動学会誌第16巻1号  
2005年 「児童虐待の心身への影響」心身医学第45巻第3号  
2012年 「子ども虐待の実態」教育と医学60巻9号  
2013年 「市町村との機能連携」子育て支援と心理臨床7巻  
2011年 「児童福祉施設での子どもの暴力にどう支援するか」福祉心理学研究第11回1号  
2014年 「家庭状況が子どものネグレクト状態に与える影響」子どもの虐待とネグレクト第16巻1号

講師の安部氏は虐待問題に造詣が深く、全国を飛び回って活躍中ですが、児童相談所心理職としての長い経験もお持ちです。児童相談所在職中は、特に描画テスト、箱庭療法のキレのある読み取りで知られ、職域を越えた勉強会を主催され、多くの仲間を育ててこられました。

今回のご講演では、当時から考察を深めてこられた「①作者の意識や無意識がどのように箱庭の中に現れているのか、②箱庭に表わされた作者の「こころ」全体を、どのように受け取り、読み解けばいいか」というテーマから発展し、「箱庭」のみならず「事例」全体の理解へと広がる考え方をお話しいただける予定です。

私たちが「ロールシャッハ反応」から読み解こうとしているものの意味を、「表現の成り立ち」として、更に「表現の読み取り」という視点から、共に考える機会としたいと思います。

## 「テスト - リテストの変化から学ぶ

### ～19歳から30歳の足跡を追って～」

事例提供: 中村 紀子(中村心理療法研究室)

指定討論: 坂野 雄二(北海道医療大学)

司 会: 渡邊 悟 (八王子少年鑑別所)

一回の心理検査でわかることと、繰り返しアセスメントをしてみることによってはじめてパーソナリティの根幹や本質が理解できることがあります。経過の中で変化と不変の波に洗われ、パーソナリティも地層のように、年輪のように年齢と経験が積み重なって成長していくのだということがテストとリテストから見て取れます。

10年の経過における4回のロールシャッハの結果から

1回目の結果では予測値としての理解でしかなかったものが、10年後の経過でその理解を確かめる機会が得られるとすれば、それは貴重な経験であり査定学としても重要なデータとなるものと思われ  
ます。長い目で見た良い方向への変化、その人にとって居心地のいい自分になるための ターニングポイント 革新は  
どのように訪れるのか、データベースでたどりたいと思います。

そのために、19歳の初回と、実質的な変化が生活上に見られてきた55セッション後の21歳時、そして80セッション余りを経て終結を目前にした24歳の時のロールシャッハの結果をたどります。最後に7年余りたって30歳時に再来した時の結果から、改めてそれまでの変化の全体像をまとめたいと思います。

重要だった二人の専門家

このケースには、2人の専門家が関与していました。一人目はエクスナー博士です。初回のロールシャッハのデータは1992年に博士が初来日して小田原でワークショップを行った時に検討されたもので、ロールシャッハの結果から何が考えられ、何が重要で、どのように展開する可能性があるかなど、その後のセラピーにつながるたくさんの理解をもらいました。セラピーをするのであれば、まずはきちんとアセスメントをして、その結果について本人とも話し合っ確認し、結果を生かしながらセラピーを展開していく。そして終結するにあたってはリテストをして効果測定をし、本人とも変化を話し合っまとめる、という一連の作業を初めて体得したケースでした。駆け出しのセラピストだった私にとっては、それから後もロールシャッハが手放せない羅針盤となる経験になりました。

---

二人目は指定討論者の坂野雄二先生です。生活上でいろいろ動きが取れるようになって変化の手ごたえが出てきた最初のリテスト(20か月後)をした頃、本人の問題は「会食恐怖」に収斂していきました。この会食恐怖にターゲットを絞って、坂野先生に認知行動療法を依頼しました。そこで3か月余り、坂野先生から受けた緊張と予期不安に対処するトレーニングは、その後もずっとこのクライアントに活かされていたようです。緊張感と強い予期不安が起こっても、それを自分で感知してそのような状態を自分でコントロールできるのだという自信があったために、何とかやれてきたということが10年後の再来セッションで繰り返し語られました。

長期のカウンセリングやセラピーで地ならしができたうえで、短期間の認知行動療法を組み合わせる双方の長所を生かすタイミングについても考えたいと思います。ロールシャッハの結果から、認知行動療法を導入する時期とタイミングをどのように図るのかを検討して、ロールシャッハの結果を認知行動療法の適用の判断にどのようにつなげられるかも考えられると現実的な議論になると思います。



# 口頭発表(調査研究)

6月12日(日) 9:30~10:30

---

## A 201教室(2階) ①9:30~10:00, ②10:00~10:30

- ① 「非行少年におけるロールシャッハ・テストの反応特徴(1)~非行態様別による調査~」
- ② 「非行少年におけるロールシャッハ・テストの反応特徴(2)~改善更生への促進要因を導き出す挑戦~」

## B 202教室(2階) ①9:30~10:00, ②10:00~10:30

- ① 「包括システムによる子どものロールシャッハ基礎データ研究」
- ② 「放火に及んだ統合失調症患者 6 名のロールシャッハ・テストに関する研究~入院中の統合失調症群との比較から~」

## C 301教室(3階) ①9:30~10:00, ②10:00~10:30

- ① 「自閉症スペクトラム障害大学生のロールシャッハテストと WAIS-IIIによる社会適応に関する一考察」
- ② 「自閉スペクトラム症の認知特性とサブタイプの検討~特殊部分反応の質的分析を通して~」

## D 302教室(3階) ①9:30~10:00, ②10:00~10:30

- ① 「Rorschach test を用いたレビー小体型認知症とアルツハイマー型認知症の比較研究」
- ② 「自閉症スペクトラム障害と診断された男性におけるロールシャッハ・テストと AQ テストとの関連について」

# 口頭発表(事例研究)

6月12日(日) 10:30~11:30

---

## A 201教室(2階)

- ③ 「ロールシャッハ・テスト再検査の検討～「つぶれ型」の非行少年の2事例～」

## B 202教室(2階)

- ③ 「境界性人格障害の診断を受けている受刑者のロールシャッハ・テスト」

## C 301教室(3階)

- ③ 「認知を揺さぶるアセスメント～認知行動療法にロールシャッハテストを生かす～」

## D 302教室(3階)

- ③ 「学習障害が疑われた大学生の事例理解とその支援～ロールシャッハテストデータを通して学生の生きづらさを理解する～」

# ポスター発表

6月12日(日) 9:30~16:30 4号館1階

---

\*ポスター発表筆頭者の在席時間は、13時から13時30分までです。

- ① 「依存症のロールシャッハ・テスト, MMPI, WAIS ～60代女性の2事例～」
- ② 「自殺未遂歴のある20代男性のアセスメント～自殺の危険性の評価と結果の活用を通して～」
- ③ 「肥満症患者230名のロールシャッハ変数の特徴～男女差の比較～」